

## クイーン・スクエア・ホスピタルの創設と発展

柳澤 波香

青山学院大学/津田塾大学

ロンドンのクイーン・スクエア・ホスピタルは、英国初の麻痺・癲癇治療の専門病院 National Hospital for the Relief and Cure of the Paralysed and Epileptic として、1860年に設立された。現在の名称は、National Hospital for Neurology and Neurosurgery であるが、病院の所在地である Queen Square に因み、創設以来、クイーン・スクエア・ホスピタルと呼称されている。

クイーン・スクエア・ホスピタルは、当時の他の病院と同様、ヴォランティア・ホスピタルとして創設された。創設者ジョアンナ・チャンドラー (Johanna Chandler, 1820-1875) は、幼いころに両親を亡くしたため、弟妹と共に祖母に養育され、成長した。後年、祖母は脳血管障害による麻痺に悩み、苦しんだ。ジョアンナは献身的に祖母を介護したが、麻痺患者の入院、治療を行なう病院は当時の英国にはひとつもなかった。一般病院においても、神経学は診療科として標榜されていなかった。麻痺患者は病に苦しみ、また、癲癇患者は救貧院に収容されるなど、神経系疾患の患者が置かれた境遇は極めて悲惨なものであった。祖母を看取った後、ジョアンナ、妹ルーザ、弟エドワードは、麻痺や癲癇に苦しむ患者を救済するため、専門病院の創設を決意した。財力を持たないチャンドラーのきょうだいは、病院設立資金のために、貝殻とビーズの手工芸品を製作、販売し、2年間で200ポンドを得た。麻痺・癲癇専門病院の設立にかかるジョアンナらの情熱は、片麻痺を患うロンドン市長の支援を得て、1859年、市長宅にて病院設立準備会合が開かれた。その結果、各方面から寄せられた寄付金は800ポンドに達し、その資金により、翌1860年5月、ロンドン中心部のクイーン・スクエアに、National Hospital for the Relief and Cure of the Paralysed and Epileptic が開設された。設立当初の病床数は12床であった。

英国内には神経学の臨床および研究の機関がそれまで存在しなかったため、クイーン・スクエア・ホスピタルは、たちまち英国の神経学の拠点となった。部分てんかんを初めて記載した、英国神経学の父ジャクソン (John Hughling Jackson, 1835-1911)、*A Manual of Diseases of the Nervous System* を著したガウワズ (William Gowers, 1845-1915)、1884年に初のグリオーマ手術を行なったゴドリー (Rickman J. Godlee, 1849-1925)、脊髄腫瘍手術、てんかんの外科手術で知られるホースリー (Victor Horsley, 1857-1916) などが病院医師として勤務し、創設から20~30年の内に、神経学、脳神経外科学上の数多くの業績がここであげられた。

医学上の優れた業績のほか、清潔さ、心地よさは、この病院の特筆すべき特徴であった。創設者のジョアンナ・チャンドラーが患者のこころの平安を希い、病院内にも家庭的雰囲気をもたせるように殊のほか留意したためである。また、クイーン・スクエア・ホスピタルは、イングランドで初めて男性看護師を病院看護師として採用し、電気療法を他の病院に先駆けて導入した病院である。

クイーン・スクエア・ホスピタルとして内外に広く知られる National Hospital for Neurology and Neurosurgery は、高度先進治療、教育、トランスレーショナルリサーチの拠点として、現在はロンドン大学ユニヴァーシティコレッジ・ホスピタルの一翼を形成している。2010年、病院は創設150周年を迎える。